

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸が原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	51人	算数	51人	理科	53人
第5学年	国語	58人	算数	58人	理科	58人

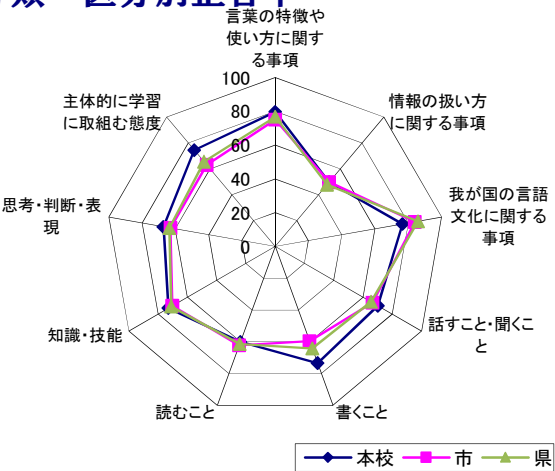
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	79.6	75.1	76.7
	情報の扱い方に関する事項	49.7	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	76.5	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	70.2	66.5	65.5
	書くこと	73.5	59.6	64.2
	読むこと	60.1	62.2	61.5
観点	知識・技能	73.0	70.2	71.1
	思考・判断・表現	67.1	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	74.5	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

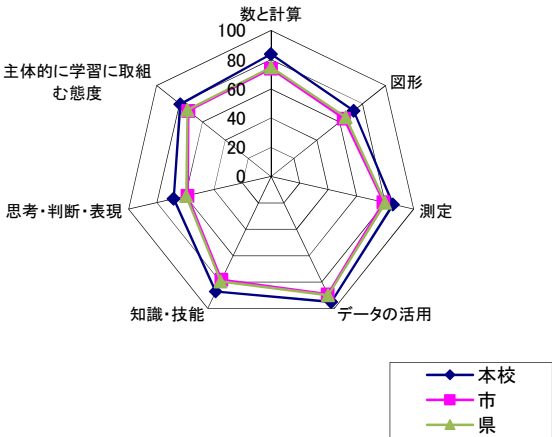
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○漢字の読み書きの正答率は、問題によって差が見られたが、県の平均正答率を上回っているものが多かった。 ○主語と述語についての問題では、正答率が県の平均正答率より10.0ポイント高く、文の構成についての理解が良くできていた。 ○ローマ字を読む問題の正答率は76.5%と高く、県の平均正答率よりも上回っていた。	・漢字練習の課題や小テストを定期的に実施し、読み書きとも確実な定着を図る。 ・文の構成を学習する際は、2年生の学習を振り返るとともに、様子を詳しく表す言葉を知り、文中の修飾・被修飾の関係をとらえることができるように、プリント学習や、実際に文を書く中で、構成を意識させる指導を繰り返し行う。 ・国語の学習以外でも、パソコンでの文字の入力など、ローマ字を使った活動を意図的に設定し、繰り返し練習させることでさらなる定着を図りたい。
情報の扱い方に関する事項	○市と同等の正答率であり、県の平均正答率よりはやや高かった。 ○国語辞典の使い方の問題では、県の平均正答率を3.7ポイント上回っている。 ●説明文の中で情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約する問題において、県の正答率を4.4ポイント下回っている。	・学校図書館司書と連携をし、辞典や図鑑などを活用した授業を展開していく。 ・文章の中の中心となる語や文を見つけられるように、繰り返し出てくる言葉に、線を引いたり囲ったりしながら文章を読む指導を行い、大切な語句や文を意識して読むことができるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	●漢字のへんやつくりについての問題は、県の平均正答率を9.4ポイント下回っている。	・漢字を学習する際に、へんやつくりについても指導を行い、部首についての興味関心を高め、知識を増やすことができるようにする。 ・朝の学習や宿題などで、へんやつくりについてのいろいろな問題に繰り返し取り組みさせることで定着を図る。
話すこと・聞くこと	○本校の平均正答率は、県の平均正答率を4.7ポイント上回っている。特に、話し手が伝えたいことを捉える問題では、正答率が県の平均正答率より3.9ポイント高い。 ●話の中心を明確にするための話し手の工夫についての問題の正答率は県の平均正答率をやや下回っている。	・1分間スピーチや授業の中で、話し手の伝えたいことや中心を意識させながら、話を聞く指導を行い、大切なことを捉えて聞く力を育てる。 ・話したいことの中心を明確にするための、スピーチの工夫について考えさせ、実践する機会を設ける。 ・国語以外の教科や活動でも、話し合い活動を充実させ、自分の考えを話したり、聞いたりする経験を積ませる。
書くこと	○本校の平均正答率は、県の平均正答率を9.3ポイント上回っている。特に記述問題正答率が県と比べて高く、指定された長さや段落を理解し、自分の考えや理由を明確にして文章を書くことが良くできている。	・授業の中で、長さや条件を指定して文章を書く活動を意図的に設定したり、他教科や日記など自分の考えを書く活動を繰り返し行うことで、書く力をさらに伸ばしたい。
読むこと	○説明文の文章の内容を叙述を基に捉える問題では、正答率が県の平均正答率よりも3.4ポイント上回っている。 ●物語の登場人物の気持ちを叙述を基に捉える問題の正答率は、県の平均正答率よりも11.1ポイント下回っていた。 ●場面の様子について叙述をもとに段落の内容をとらえる問題の正答率は、50%を下回り、物語文の段落の内容を正しく理解する力に課題が見られる。	・物語、説明文とも叙述を基にして読むことについて繰り返し指導し、登場人物の気持ちや場面の様子、文章の大体の内容を捉える力を身に付けさせたい。 ・朝の読書の時間や図書室を積極的に活用し、たくさんの本に触れさせることで、文章を読むことに慣れ、読む速さや内容を理解する力を高められるようにする。

宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	83.8	73.8	74.8
	図形	72.2	63.7	65.3
	測定	85.5	78.9	80.1
	データの活用	95.1	89.3	90.0
観点	知識・技能	87.1	78.3	79.5
	思考・判断・表現	68.3	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	79.4	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

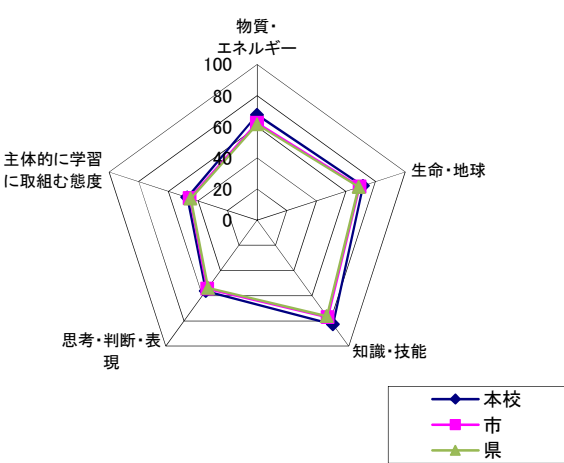
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、市の平均を10ポイント上回っていた。 ○大きい数・小数・分数の全ての問題で、市の平均正答率を8ポイント以上上回っていた。 ○かけ算の暗算の仕方を説明する問題では、市の平均を25.8ポイント上回っていた。	・引き続き、ドリル・プリント等を活用し、繰り返し問題に取り組ませ、計算する力の定着を図る。 ・授業の中で、計算の答えを求めるだけでなく、どうしてそうなるのか計算の仕方を説明する活動を意図的に取り入れ、計算の意味を理解できるようにする。
図形	○平均正答率は、市の平均を8.5ポイント上回っていた。 ○二等辺三角形の作図をする問題では、正答率が98.0%で、市の平均を11.1ポイント上回っていた。 ●円の中心と円周上の2点を結んでできる三角形が二等辺三角形になる理由を説明する問題では、市の平均を上回っているが、正答率が15.7%であった。	・授業や朝の学習等で、作図の問題に繰り返し取り組みせ、コンパスや定規を使って正しく作図することができるように指導していく。 ・図形の定義と性質を繰り返し確認し、それらを使って考える問題に多く取り組みせ、自分の考えを記述し、説明する力を育てていく。
測定	○平均正答率は、市の平均を6.6ポイント上回っていた。 ○2つの時刻の間の時間を求める問題では、正答率は88.2%で、市の平均を11.9ポイント上回っていた。 ●重さの単位の問題では、市の平均を上回っているが、平均正答率は、70.6%とやや低かった。	・時刻と時間の問題については、引き続き既習内容の復習を繰り返し行ったり、日常生活の中で時間について意図的に話題にしたりして、さらに学習内容の定着を図る。 ・実際の単位の大きさを実感できるようにデジタル教科書や教具を使って、指導を工夫していく。
データの活用	○平均正答率は、市の平均を5.8ポイント上回っていた。 ○表と棒グラフでは、1めもりの大きさやグラフの大きさを答える問題の正答率は、90%以上で市の平均を上回っていた。	・フォローアップシートやAIドリルを活用し、いろいろな表やグラフを読み取る問題に多く取り組みせ、さらに定着を図る。

宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年【理科】 分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	67.6	62.5	61.5
	生命・地球	71.5	69.2	68.6
観点	知識・技能	82.9	77.2	76.3
	思考・判断・表現	56.2	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	47.1	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○平均正答率は市の平均を5.1ポイント上回った。 ○電気の通り道を「回路」と答える問題については、市の平均を17.8ポイント上回った。 ○N極が北を示すことについての磁石の性質に関する問題については、市の平均を15.7ポイント上回った。 ●鉄くぎがどんな磁石になるのかに関する問題については正答率は市の平均と同等であるが、誤答(N極とS極の位置が逆)の割合も39.2%であった。 ●糸電話の音の伝わり方やその分断の仕方を答える問題については、市の平均と同等であるが、他の問題と比較して誤答の割合が大きかった。	・実験に十分に取り組んだり、一人一台端末を積極的に活用したりした単元についての問題は正答率が高かった。今後も「予想→実験→結果→考察」の流れを大切にしたい授業や一人一台端末を効果的に活用し、理解が深まる指導を行う。 ・それぞれの物体の特徴をもとにして課題を読み取ったり、考えたりする問題についての正答率が低かった。どんな特徴があるかだけでなく、どうしてそうなるのかを考えたり、実際にどんなことに用いられているかを調べたりする活動などに取り組むことで、応用的な課題を思考できるように指導する。
生命・地球	○平均正答率は市の平均を2.3ポイント上回った。 ○体の特徴から昆虫かどうかを判断する問題については、市の平均を10.6ポイント上回った。 ○棒温度計の目盛りの読み方に関する問題については、市の平均を10.9ポイント上回った。 ●モンシロチョウ・カブトムシ・トンボの育ち方の比較に関する問題については、市の平均を4.9ポイント下回った。 ●日向と日陰の地面の温度の様子から、日傘の下の方が涼しく感じる理由を考える問題については、市の平均を8.1ポイント下回った。	・児童にとって身近で興味のある「昆虫」についての問題や使用頻度の高い温度計についての問題の正答率は高かった。それぞれの単元や授業の導入で児童の関心が高まるように、生活や既習事項と関連させて指導をする。 ・少し長い文を読んで回答を選んだり、書いたりする問題についての正答率が低かった。考察やまとめ、ふりかえりなどを書く練習を繰り返し行う。その際に、どんな観点で書くか、入れるべきキーワードがあるかどうかなどを考えて指導に当たり、児童の考える・書く力が身に付くようにする。

宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」という質問の肯定的回答割合は88.5%で、市の平均を上回っていた。「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う」は94.2%で、市の平均をわずかに下回ってはいたが大きな差は見られなかった。この結果から、学習することが自分にとって大切なことと考え、学習する楽しさを感じている児童が比較的多いと言える。今後、この意欲を大切にしながら、楽しさを感じられる学習指導に取り組みたい。

○●家庭学習に関しては、「宿題をしている」という質問の肯定的回答割合は92.3%、「宿題は自分のためになっている」は98.1%で、9割以上の児童が、自分のために真面目に宿題をする習慣が身に付いていると言える。だが、「テストでまちがえた問題について勉強をしている」は42.3%、家庭学習を「同じ時刻に取り組むようにしている」は50%で、ともに市の平均を大きく下回っている。真面目に宿題に取り組んでいることに対しては大いに称賛して励まし、意欲が継続するようにしていきたい。家庭学習の取り組み方については、取り組む時刻や内容、方法等の改善が必要なので、特に自主学習を中心として、良い例を挙げながら指導していきたい。また、学年だよりや懇談会等によって啓発を行ったり、協力を依頼したりするなど、引き続き、家庭との連携を図りたい。

●平日のTV・DVD・動画の視聴時間は、2時間～4時間以上が57.7%と6割近くになっている。平日としては、多くの時間を費やしていることになる。時間を計画的に使い、睡眠、自主学習、読書の時間を確保できるよう、家庭と連携しながら指導したい。

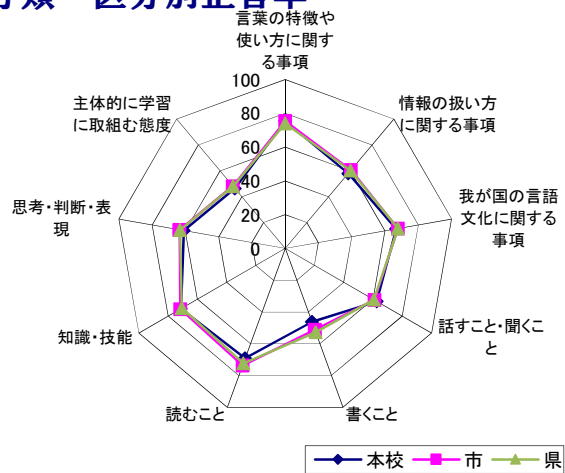
○●授業に関しては、「集中して受けている」という質問の肯定的回答割合は96.1%、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」は96.2%と、非常に良い結果となっている。一方、「自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」は84.6%で、市の平均を18.9%上回っており、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」は48.1%で5割を切っていた。この結果から、友達の意見にしっかりと耳を傾けるなど授業に真剣に取り組んでいる児童が多いが、自分の考えを文章や発表で表現することを苦手とする傾向が見られる。今後は、表現方法を具体的に指導していくとともに、表現の機会を積極的に設けることで、児童が表現することに慣れ、自信をもつことができるよう支援したい。

○●「自分には、よいところがある」という質問の肯定的回答割合は90.3%、「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」は88.5%で、どちらも市の平均を上回っていた。だが、「自分の行動や発言に自信をもっている」は55.8%で5割程度に留まっている。児童は、保護者の温かい支えもあって自分のよさを認識しているが、それが即自信につながるとは言えないことがうかがえる。学習活動や学級経営の仕方を工夫することで、自己肯定感や自己有用感を高めていきたい。

宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	75.6	75.4	74.1
	情報の扱い方にに関する事項	58.0	60.5	60.2
	我が国の言語文化にに関する事項	66.7	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	62.6	61.0	60.7
	書くこと	46.3	51.2	52.8
	読むこと	69.1	73.7	72.4
観点	知識・技能	71.2	71.7	70.6
	思考・判断・表現	60.9	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	46.3	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

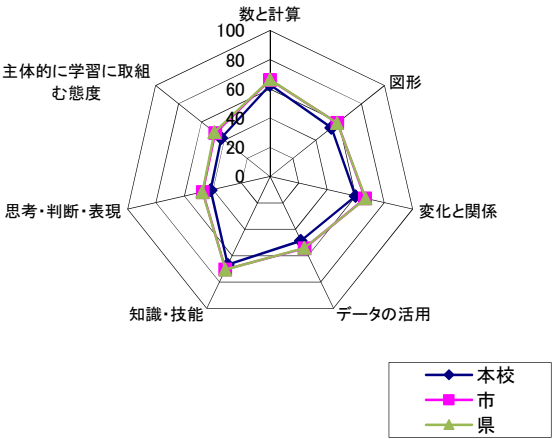
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○正答率は75.6%で、県の平均より1.5ポイント高い。 ○漢字を正しく書く問題では、県の平均より8.3ポイント高い。 ●連用修飾語の使い方についての問題では、市や県の平均を上回っているが、正答率が27.8%と低かった。	・漢字練習やミニテストを継続的に行い、漢字の定着が図れるよう指導する。 ・言葉の学習では、主語・述語だけでなく、文章のつながりや、どの言葉を修飾しているのかにも目を向けられるよう指導する。
情報の扱い方にに関する事項	●正答率は58.0%で、県の平均より2.2ポイント低い。 ●情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話す設問では、正答率が35.2%で、市の正答率を下回っており、無回答も25.9%であった。	・授業において、キーワードに線を引き、中心となる語句や文を意識しながら読む活動を取り入れ、文章の中の情報や内容を理解する力を育てる。 ・学級活動や各教科の学習を通して、話し合い活動を積極的に取り入れ、情報を伝えるときに、理由や事例などを挙げながら話すことができるようにする。
我が国の言語文化にに関する事項	●ことわざの意味を知り正しく使う問題の正答率は66.7%で、県の平均を1.1ポイント下回った。	・わからないことわざや慣用句、四字熟語等の意味については、辞書を進んで活用し、自ら調べる習慣を身につけさせ、普段の生活の中でも積極的に国語辞典やことわざ辞典に慣れ親しませるようにする。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は、市の平均より1.6ポイント高い。 ○話し合いの内容を聞きとる設問では、市の平均より3.6ポイント高い。 ●情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話す設問は、無回答率が25.9%と高い。	・先生の話や1分間スピーチだけでなく、各教科等でも5W1Hを意識させて聞くこと、話すことを継続して指導する。 ・自分の意見を友達に伝えるときに、例を挙げたり、聞き手に問いかけたりしながら話せるように指導する。
書くこと	●平均正答率は、市の平均より4.9ポイント低い。 ●指定された長さや段落で文章を書く設問では、市の平均より4.9ポイント低い。また、無回答率が16.7%と高くなっている。	・国語の授業や宿題等で、指定された長さで段落の構成について理解したうえで書き始めることができるよう、継続して指導する。 ・自分の考えと、それを支える理由や事例を明確にして文章を書けるよう指導する。
読むこと	●平均正答率は、市の平均より4.6ポイント低い。 ●物語の読み取りが3.8ポイント、説明文の読み取りが5.3ポイント市の平均より低い。	・言葉の一つひとつ丁寧に読み取り、叙述を基に内容を捉えることができるよう指導する。 ・朝の学習や宿題等を通して、説明文の読解力の定着を図れるようにする。 ・説明文や長文では、段落のまとまりを意識させ、要点をまとめたり見出しを付けたりする活動を意図的に増やす。

宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.7	66.1	66.4
	図形	53.6	58.9	58.8
	変化と関係	60.0	66.6	67.0
	データの活用	48.6	54.4	54.2
観点	知識・技能	66.9	70.4	70.6
	思考・判断・表現	41.7	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	42.6	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

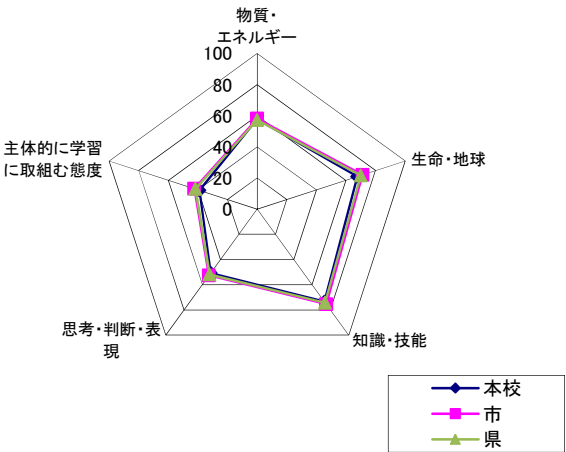
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●正答率は市の平均より3.4ポイント低い。 ○数の相対的な大きさについては、県正答率より2ポイント上回り正しく理解していることがうかがわれる。 ●4枚のカードの中の、整数、仮分数、帯分数、真分数を小さい順に並べる問題では、正答率が39.6%と県の正答率を3.3ポイント下回っていた。	・基礎的な問題については、フォローアップ問題、AIドリルなどを活用し何度も復習することで基礎基本を定着させる。 ・整数、分数、小数の大きさについては、数直線を用いた指導を大切に実際の大きさを視覚的にとらえられるようにしていく。 ・計算の手順を繰り返し指導し、確認することで計算の能力を定着させる。TTや少人数、習熟度など単元によって学習形態を工夫し基礎的な学力の定着を図っていく。
図形	●正答率は、県正答率より、5.2ポイント低かった。 ○360°より小さい角の大きさを求める問題では、県正答率を4.5ポイント上回った。 ●教室のおよその面積を求める問題の正答率が、県平均より6.9ポイント低く、また面積の単位の関係を長さに関係づけて説明する問題では、県正答率も19.2%と低かったがさらに6ポイント下回った。	・デジタル教科書や実物投影機などを利用して角度の測り方を確認したり、立体の問題では、立体模型を用いて、辺の平行や垂直の位置関係を理解できるように繰り返し指導していく。 ・教室の面積や、机の面積など、実際の長さに関係づけて考えさせるなど、具体物による操作活動を取り入れていく。
変化と関係	●正答率は、県の正答率より、7ポイント低かった。 ○伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める問題では、県の正答率より1.5ポイント上回った。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題では、県の正答率より10.2ポイント下回った。2つの数量の関係から立式することに課題がある。	・授業で、図、式、言葉などで説明する活動を意図的に取り入れ自分の考えを表現することに慣れていくようにさせる。 ・授業の中でも、問題文を最後まで読み、わかっていることは何か、求めたいものは何かなど、正しく読み取れるように繰り返し指導していく。 ・フォローアップ問題やAIドリルを活用し苦手な部分を補充していく。
データの活用	●正答率は、県の正答率を5.6ポイント下回った。 ○2次元表から、人数の多いものを読み取る問題では正答率が市の正答率とほぼ同等であった。 ●人数を比べるための求め方を言葉や数、式を使って説明する問題では無回答率、正答率ともに県の正答率を5.5ポイント下回っている。文章で説明したり長い問題から読み解いたりすることに課題がある。	・データの活用では、算数以外の教科でも資料として提示したり、表やグラフを使ってまとめる活動を取り入れたりして読み取る力を向上させていく。 ・授業でも、自分の考え方を言葉で説明したり、ペア学習などで自分の考えを友だちに説明したり、グループで話し合ったことをまとめて説明したりするなどの活動を多く取り入れていく。

宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年【理科】 分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	57.8	58.1	57.2
	生命・地球	67.7	71.1	70.0
観点	知識・技能	73.5	75.5	74.4
	思考・判断・表現	50.8	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	39.0	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○物の体積と力の問題については、県平均より8.2ポイント、電気のはたらきの問題にある乾電池の向きを入れ替えたときの車の進み方の理解については、県平均より11.6ポイント上回っている。実験と結果の理解が高いと考えられる。 ●水のすがたの問題にある折れ線グラフをもとに水の量の違いと沸騰する温度の関係について記述する問題で10.4ポイント、湯気が液体であることを答える問題で7.6ポイント県平均より下回っている。誤答や無回答の割合が高いことから、科学的な根拠を基に文で答える問題に課題があることが考えられる。	・実験したことや学習したことを自分たちの生活の中で経験する事象と関連付けて考える習慣を身に付けさせるよう、授業や日々の生活の中で指導していく。 ・物質・エネルギーの領域を指導するに当たっては、めあてを明確にし、予想を立てて実験を行い、結果をまとめ、考察をするという学習の展開を大切にして指導することで、科学的な思考力を高めていくようにする。また、結果や考察を言語化することも丁寧に指導し、理解と定着を図っていく。
生命・地球	○1年間の動物のようすの問題にあるツバメの1年間のようすの設問については、県平均より7.7ポイント、自然の中の水の問題にある日なたに置いた水の量が減る理由については、県平均より5.4ポイント上回っている。身近な自然現象についての理解が高いと考えられる。 ●天気の様子と気温の問題にある気温をはかる条件の理解は、県平均より18.8ポイント、月と星の問題にある方位磁針の使い方については、県平均より22.4ポイント下回っている。知識の定着が不十分と考えられる。	・観察や実験を重視するとともに、インターネットやDVDなどの映像資料を活用して、具体的な自然現象を想起させながら、知識の定着を図っていくようにする。 ・観察や実験をするときには、器具の扱い方についての理解をすることができるように、実物や画像、動画などを活用し指導にあたる。 ・観察や実験のポイントを具体的に示すなどして活動時の視点をもたせるようにし、必要に応じて補助的な発問を加えながら、各児童が事象を正確に理解することができるようにする。

宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
○「自分には良いところがあると思う」「自分はクラスの人の役に立っていると思う」「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」「自分の行動や発言に自身をもっている」の肯定的回答割合はいずれも市や県の平均を上回っており、児童の自己肯定感の高まりがみられる。今後も児童を認め励ます指導を継続して行っていく。	
○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「授業ではクラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」「クラスは発言しやすい雰囲気である」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の肯定的回答割合も、市や県の平均を上回っている。これからも、自分の考えを説明したり、ペアやグループで話し合ったりする活動を効果的に取り入れた授業づくりに力をいれていきたい。	
○「家の人と学校での出来事について話をしている」「家の人と将来のことについて話すことがある」「家の人はあなたが褒めてもらいたいことを褒めてくれる」の肯定的回答割合は、市や県の平均を上回っている。家庭での児童への言葉がけや励ましで自己肯定感を高めていることが考えられる。	
●「家で学校の授業の予習をしている」「家で学校の授業の復習をしている」「家で学校や塾の決められた宿題の他に、自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答割合は、市や県の平均を大きく下回った。「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」の肯定的回答割合も、県の平均を10ポイント下回っている。今後自主的に家庭学習に取り組む意欲や態度が育てていきたい。	
●「学校の授業時間以外に、ふだん一日あたり、どれくらいの時間勉強をしますか。」では、「2時間以上」の回答が15.1%で市や県の平均と同等であった。しかし、「1時間未満」の回答は、69.9%で、市の46.4%と比べ、23.5ポイント上回る結果となった。本校児童の家庭での学習時間には、ばらつきがみられる。家庭学習の習慣化に向けた指導、発達段階に応じた自主学習の取り組み方の指導をしていく。	

宇都宮市立御幸が原小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
協働的な学びで思考力・表現力を育てる授業作り	課題意識が高まる教材と問題との出会い、発問の工夫（導入の重視） 活動内容に応じて、ペアやグループなど学習形態を工夫し、協働して課題に取り組む態度を育成	「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」に肯定的回答をした児童の割合は、4.5年生ともに、85%以上で、市や県の平均を上回っている。「クラスの友達との間で、話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりすることができている」と答えた5年生の児童は、84%以上で、市や県の平均を上回っていた。
個に応じた指導と学習内容の定着を図る指導の充実	授業での「めあて」「まとめ」「振り返り」の提示とその活動の工夫 分かりやすい板書とノート指導の工夫をする。 習熟度別学習や少人数学習、TT、朝の学習時の担任外の個別指導等の効果的な実施	基礎的な知識技能に関する問題、活用力を問う問題ともに正答率が市や県を上回るものも多くあったが、無回答率が高い問題もあり、教科や個人差が大きい。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	4月に「家庭学習の手引き」を各家庭に配付し、学年に応じた家庭学習の時間の目安や内容の提示	「家で学校の宿題をしている」の肯定的回答割合は、4年が92.3%、5年生が96.2%と高かったが、「家で計画を立てて勉強をしている」「家で学校の授業の予習をしている」「家で学校の授業の復習をしている」と答えた児童の割合は、市や県より下回っていた。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
どの教科も、記述問題についての正答率が低く、自分の考えを、表現する力に課題がみられる。	問題や文章の意図を手掛かりに、自分の考えをもち、それを分かりやすく表現する力の育成	・自己肯定感を意識した授業を展開するとともに、友達との話し合いで、自分の考えをもち相手に伝える活動を多く経験させることで、自信をもって自分の考えを相手に伝えられるようにする。 ・各教科において、学習のまとめや振り返りの活動を充実させ、自分の考えを書いて表現する機会を多く設定する。